



— 第69号 —
 〒214-8565
 川崎市多摩区西生田1-1-1
 日本女子大学教育学科の会
 電話 044 (952) 6870 (代)
 FAX 044 (952) 6889
 ホームページ
<http://jwu-gakuen.net/>
 メールアドレス
info@jwu-gakuen.net

ひめのさい
第26回 日女祭
 10月15日(土) 16日(日)
 午前10時～午後5時
 *入場は両日共に午後3時30分まで

ホームカミングデイ・講演会のお知らせ

会長 吉崎 静夫

毎年、日女祭にあわせてホームカミングデイを開催し、講演会を行っています。今年も、東京教育大学を退官後、昭和五十年から日本女子大学教育学科に日本教育史の担当教員として在職された唐澤富太郎先生について、唐澤先生の三女であり教育学科の卒業生でもある唐澤るり子氏(唐澤博物館長)から、「唐澤富太郎と博物館」と題して講演をいただくことになりました。

唐澤富太郎先生は、「生活教育史」の必要を想起し、「教育の社会史の先駆的業績」と評される近代教育史三部作『教師の歴史』『学生の歴史』『教科書の歴史』を上梓されました。これらに留まらず、先生のご業績は、日本教育史の系譜を語るうえで欠かすことのできないものとされています。平成五年には、「自宅敷地内に、唐澤博物館を設立されました。博物館には、先生が、長年の研究生活の中で、収集された七〇〇〇点余りの具体的資料(教科書や玩具等)が展示されています。昔の子どもたちが、実際に学び、遊んだ実物を通して、日本の教育史に触れることができる場となっています。本講演会を通して、唐澤富太郎先生の思想に触れていただければと思います。また、教育学科の卒業生・在校生の皆さまにとっては、母校に唐澤富太郎先生という偉大な研究者がいらしたことを知り、大学への誇りを高める貴重な機会となることを期待しています。皆さま、どうぞ奮ってご参加ください。

日 時 平成二十八年十月十五日(土)
 午後一時～午後三時

場 所 九十年館A棟第一会議室
 (西生田キャンパス)

テ ー マ 唐澤富太郎と博物館

講 演 者 唐澤るり子(唐澤博物館長)

司 会 田中雅文(教育学科教授・学科長)

申し込み 準備の都合上、なるべく同封の葉書で十月七日(金)までにお申し込みください。(申し込みなしでの当日参加も歓迎です。)



会長就任のご挨拶



教育学科教授 吉崎 静夫

この度、岩木秀夫先生の後を受けて、教育学科の会の会長を務めることになりました。

私は、二つの国立大学(大阪大学、鳴門教育大学)で働いた後、平成五年から日本女子大学教育学科に勤務しています。現在、二十四年目を迎えています。本当に、長くお世話になっていきます。そこで、少しでもお役にたてればと考えて、今回会長を引き受けることにしました。どうぞよろしくお願いたします。

ご存知のように、五年後に教育学科は学科発足の地である目白台に戻ります。目白キャンパスは、日本女子大学住居学科の卒業生で、世界的に著名な建築家である妹島和世氏(妹島氏は水戸一高出身で、私の後輩でもあります)のデザインによってリニューアルされます。そして、家政学部、文学部、人間社会学部、理学部の四学部が連携協力して学部・大学院教育を展開することになります。

教育学科にとっては、この目白統合までの五年間が特に重要な時期となります。というのも、十八歳人口が急激に減少し始める、いわゆる「二〇一八年問題」を間近に控えているからです。このようなときこそ、同じ学科で学んだ卒業生と学んでいる在校生を「学縁(元会長の牧野暢男先生が命名された)」でつなぐ「教育学科の会」は、学科にとって力強いサポーターです。ご支援のほど、お願い申し上げます。

提言

学級経営と学校経営
 「どの子にも、何か素晴らしいものがきつとある」

教育学科特任教授 野田不二夫
 (西生田教職支援室 室長)

私が小学校教員として担任をしていた当時、通知表の裏には「どの子にもなにか素晴らしいものがきつとある」と書いていました。それは、自分自身の心に言い聞かせていたことです。とかく、教科の点数ばかりの評価になりがちで、その子どもの良さにあまり目がいかなくなりがちなのが通知表です。人間はそれぞれの個性があります。その良さを認めて伸ばしてあげることが教師の仕事だと思います。テストの点数だけで評価することは簡単です。「でもそれだけではない!」そのことを大切にしよう、と自分自身の心に問いかけながら通知表をつけていましたし、学級経営をしていました。

これは、その後校長になってからも変わりありませんでした。どの「子ども」↓どの「教員」と置き換えられます。考え方は、学級担任しているときと全く同じです。いろいろな教員がいるけれども、校長として、いかに一人一人のやる気とか良さを伸ばすかということだと思えます。そして、このように活かされた教師は、次は子どもを生か生きと活かす教師になります。これが、学校経営の究極のねらいです。

担任としての「学級経営」、校長としての「学校経営」どちらを振り返っても、いろいろな出来事やよみがえってきます。でも今となつては、いずれも楽しい良い思い出ばかりです。教職というすばらしい職業を目指す学生の皆さんを、これからも心から応援し、精一杯支援してまいります。

「個人情報取り扱いについて」制定されました
 日本女子大学教育学科の会及び会員は、個人情報の保護に関する法律に基づき、収集した個人情報は、個人情報を保護法に基づき、目的範囲内でのみ使用し、個人情報を保護法等の法令に基づき場合を除き、会員の同意なく無断で第三者に提供することはありません。
 詳しくは教育学科の会ホームページをご覧ください。

平成二十八年度 教育学科の会 大会報告

第五十五回 教育学科の会大会が、五月二十八日(土) 西生田キャンパスにおいて行われました。

〈第一部・総会〉

総会は、会長挨拶から始められ、議長
の選出、平成二十七年事業報告、決算
報告が行われました。平成二十七年の主
な事業報告として、第五十四回大会が行
われ、総会の後三名の講師による「学縁の
集い」が開催され、卒業生を囲み学生の熱
心な質疑が行われたこと、十月十七日(土)
にホームカミングデーが開催され、多田孝
志先生、寺本潔先生により「授業を創る
力をどう育てるか」学校や地域と連携した
特色ある教員養成のあり方」の講演があ
り、シンポジストとして、入野貴美子先生、
葉倉朋子先生、田部俊充先生、野田不二
夫先生に加わって頂き、私学の教員養成が
目指すべき方向を考えさせられた事、十一
月二十八日(土)に懇話会が百年館にお
いて開催され、片桐芳雄先生により「成
瀬仁蔵の歩んだ道〜日本女子大学誕生と
広岡浅子とのつながり」の講演があり、成
瀬の『女子教育』の本が広岡浅子に与え
た影響、二人の生き方から学ぶべき事が多
いと示唆されました。三月には紀要「人間
研究」第五十二号が発行され、会報「葦」
第六十七号が九月に、第六十八号が三月
に発行された事が報告されました。

その後、役員の選出、平成二十八年度
事業計画、それに伴う予算案と「日本女
子大学教育学科の会における個人情報報
取り扱い方について」が可決されました。

〈第二部・第二十回 学縁の集い〉

教育学科の会奨励賞は、小谷由美氏、
吉田和義氏、武千晴氏が受賞されました。
【報告 副会長 浦野敬子(25回生)】

講演会の前に、田部先生によるパフォー
マンスが行われ、サザンオールスターズの
「TSUNAMI」の弾き語りが行われま
した。参加者は一年生が多く、初めは緊張
した面持ちでしたが、田部先生のパフォー
マンスにより場の空気が和み、弾き語りに合
わせた手拍子も見受けられました。講演会
前に緊張をほぐす機会となりました。

パフォーマンス後は講演会が行われました。
今回は三名の卒業生の方が講演してくださ
いました。幼稚園、小学校、企業とそれ
ぞれの職場で活躍されている社会人三年目
の先輩方から、就職に向けてのお話、進路
選択の決め手、学生時代の過ごし方などの
お話を伺いました。全体でそれぞれのお話



田部先生によるパフォーマンスの様子

を聞いた後、講演者の方を中心としたグル
ープトークを行い、さらに詳しくお話を伺っ
たり質問をしたりすることができました。
非常に有意義なひと時を過ごすことができ
たと思います。

☆中島 彩希氏

中島さんは現在秦野市立幼稚園で幼稚
園教諭をしていらっしゃいます。公立の幼稚
園・保育園の教諭を目指して受験を繰り返
し、秦野市の他にも東京都特別区、横浜
市公立保育園など複数の自治体に合格して
います。

大学時代は幼稚園・小学校の教員免許
を取得しようとしていた中島さんは大学二
年時から小学校でボランティアを行われ、そ
の際に「勉強を教えるのも大切だが、子供
の社会性や自律性を育てたい」と考え、幼
稚園教諭を目指されました。中でも公立の
幼稚園を志望していた理由として、福利厚
生が良いこと、異動があることで様々な環境
に触れられ、自分を高めていけることを挙げ
ていました。

仕事では保育と事務仕事を両立、広い
知識が求められ大変ですが、毎日が新鮮で
楽しいとおっしゃっていたのが印象的でした。

☆氏岡 唯可氏

氏岡さんは教員三年目で川崎市の公立小
学校に勤められています。「とにかく子ども
が好き」とおっしゃられ、大学時代は小学校
教諭一本で頑張られていたそうです。

学生時代は二つの小学校で学校ボランテ
ィアをしており、大学三年・四年時には週
四から週五で午前中ボランティアへ行かれて、
その時の体験が今もかけがえのないもので
あると語ってくださいました。

忙しい中でも子どもと遊ぶ時間づくり、
「わからない」といえる授業づくり、学校に
行きたいと思える学級づくりを心がけている
そうです。

現在は特別支援学級の担任をしており
れ、子どもたちから学ぶ日々だそうです。

自分の長所を自慢でき、短所を笑って言
えるように、そして反省できるような人にな
って欲しい、いつも笑顔で泣ける仲間を身近に
持つて欲しいとエールをいただきました。

☆小島 早織氏

小島さんは印刷会社に勤められていま
す。雑誌などの冊子はもちろん、お菓子の
パッケージやICカードへの印刷、壁紙な
ど様々な業務があり、現在小島さんはイン
テリアや食品といったカタログの製作に携わ
っています。通販会社とデザイナーの方、
工場との繋ぎ役になることが多く、大学で
学んだ人前で話す能力やコミュニケーション
能力が活かされているそうです。

大学時代は幼稚園と小学校の教員免許
を取得しようとしていましたが、教育実習
を経て「楽しかったが、もっと不特定多数の



左から中島さん、氏岡さん、小島さん

大勢に対して影響を与えられるような職業に就きたい」と考え、一般企業への就職を考えたそうです。

そして様々なジャンルの企業を受け、選考で素を出すことができたこと、色々なことに挑戦できたこと、成果が手元に残ること

新任の先生紹介

荒牧 草平先生



◆簡単に経歴をお願いします。

大阪大学大学院で学んだ後、大学入試センターのなかの研究開発部で勤務をしていました。その後、群馬大学と九州大学で教育社会学を教えていました。博士(人間科学)を取得しました。

◆担当されている授業は何ですか。

教育社会学やデータ分析の授業を担当しています。

◆日本女子大学の学生の印象はいかがですか。

真面目で元気な学生が多い印象です。質問を投げかけると、しっかり考えて答えてくれ、授業もやりやすいです。

などから印刷会社への就職を決めたそうです。

大学で学んだことは直結していなくとも決して無駄にはならないので色んなことに挑戦して欲しいと力強くおっしゃっていました。

【学生委員3年 丸山侑織・戸澤真澄】

◆学生時代に熱中していたことは、何ですか。

テニスに熱中していました。大学の先生の研究がきっかけで、長期休みには高知県の被差別部落の中学生に勉強を教えていました。中学生と、魚釣りや川遊びをすることが、楽しかったです。

◆最後に学生にアドバイスをお願いします。

色んなことにチャレンジしてほしいです。そして、たくさん悩んで失敗してください。それが出来ることも、学生の特権だと思います。

宮井 和恵先生



◆簡単に先生の経歴をお願いします。

川崎市で38年間教員生活を送り、最後は校長で退職。昨年は川崎市の教育相談員を務めました。教員時代は国語の研究をしていて川崎市の国語科研究会会長、

県の国語科部会長を経験していました。

◆担当されている授業は何ですか。

担当している授業は教職基礎論、国語科概論・教材研究、教職実践演習、学校インターシッピングや学校ボランティアも担当しています。

◆日本女子大学の学生の印象はいかがですか。

日本女子大学の学生は優秀で、人に対してまっすぐな気持ちで接する人が多いように思えます。毎回授業をするのが楽しみです。

◆最後に学生にアドバイスなどありましたらお願いします。

学生時代に自分でいろいろな事を知ったり考える時間を取ることをお勧めします。これからの人生を考えると、学生時代は時間に余裕のある時期なので、自分と向き合う時間を大切にしてください。話したり旅行へ行ったりして自分の内面を磨いてください。

渡邊 巧先生



◆簡単に、経歴、専門科目、担当されている授業など先生のプロフィールをお願いします

ます。

静岡県出身。立命館大学(日本史学・思想史)を卒業後、広島大学大学院(社会科学教育学)に進学しました。2016年3月に、大学院を修了し、博士(教育学)を取得しました。

社会科学教育学・教師教育論を専門にしています。「教員を目指す学生や現職教員

の社会科授業力を高めるためには、どうしたら良いか?」を問題意識に、「日本やアメリカの学校現場では、実際、どうしているか?」を調査しています。

大学での授業は、社会科概論・生活科概論等を担当しています。

◆日本女子大学の学生の印象はいかがですか?

自分の意見や考えを持っていて、元気な学生が多いように感じます。

◆先生の趣味を教えてください。

趣味は、キャンプです。ボーイスカウトの指導者をしているので、小中学生と一緒にを行っています。

◆学生時代やっておいたほうがいいことなどありましたらアドバイスをお願いします。

大学2年生の時に、アメリカ短期研修があり、現地で社会学科の先生に出会い、おもしろいと思ったことが、今の研究につながっています。

学生時代には、自分から積極的に行動し、視野を広げてもらえればと思います。海外に行ったり、ボランティアやアルバイトをしたり、いろいろな挑戦してください。その中で、自分の将来の夢を見つけたり、見直したりして欲しいです。

【学生委員3年 根岸知世・森合真由子】

奨励賞を受賞して

社会人学生の学びから研究へ

日本女子大学 学術研究員 小谷 由美

このたびは教育学科の会奨励賞を頂き、心より感謝申し上げます。

私は、中学校での教員生活と、子育ての間に感じた「教育」に関する疑問に答えを得たいと考え、二〇〇二年に社会人学生として教育学科に入学致しました。

学部の四年間では、実に多くのことを学ばせて頂きました。先生方の講義を受けながら、何度も目の前の霧が晴れたような爽快感を味わい、社会人学生の「学び」を実感したことを思い出します。そして、この「学び」の経験が、その後の研究へとつながっていったのだと、今改めて思っております。

大学院に進学後は、森田伸子先生の下でさらなる爽快感を感じる「学び」を経験する一方で、教育基本法や教育権論において独自の理論を展開した田中耕太郎の思想研究に、一貫して取り組んで参りました。

しかしながら家庭の諸事情により、森田先生のご在職中に博士論文を提出することができず、大変情けない思いを致しました。幸にも今井康雄先生にご指導頂けることになり、もう一度博士論文に取

り進む機会を与えて頂きました。今井先生には新たな視点を提示して頂き、このたび、博士論文を提出することができました。

社会人学生として学び始めた頃は、今の自分を想像すらしませんでした。私にとり、研究テーマを設定し、考え、文章にすることは、決して楽な事ではありません。しかし、その過程を経て得たものは、何物にも代えがたく、また、さらなる研究へと私を向かわせるものとなりました。

最後に、ここまで私を導いて下さった森田先生、今井先生をはじめ、教育学科の先生方、励まし続けて下さった先輩と仲間に、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

研究と教育に精進

創価大学教育学部 准教授 吉田 和義

今春「教育学科の会 奨励賞」をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。また大変光栄に存じます。受賞を励みとして今後も研究と教育に一層精進する所存です。

私は、小学校に長年勤務した後、大学に奉職しました。二〇一三年度より日本女子大学大学院博士課程後期に在学させていただき、「地理教育カリキュラム開発のための子どもの知覚環境の発達プロセスに関する研究」というテーマで、博

士論文をまとめることができました。地理教育がご専門の田部俊充先生のご指導のもとに、吉崎静夫先生、瀬尾美紀子先生をはじめ多くの先生方から貴重な示唆をいただきました。

知覚環境は、環境に対する表象を意味します。子どもは、発達に応じて環境の表象としての知覚環境を形成します。子どもが白い紙に自由に描く手描き地図の分析を主な方法とし、子どもの知覚環境の実態を研究しました。そして、小学校第三学年以前と第四学年以降では、子どもの知覚環境が質的に異なることが明らかにになりました。

これを基に小学校第一・二学年の生活科、第三・六学年の社会科における地理教育の基礎理論を構築することができると考えています。

日本女子大学大学院で学ぶ機会を与えて頂いたことに感謝申し上げます。教育学科の会の皆様方にお礼申し上げます。ありがとうございました。

二〇年越しの挑戦と感謝

日本女子大学 学術研究員 武 千晴

この度は、教育学科の会より「奨励賞」を頂き、心より感謝申し上げます。

博士論文は「感化院から児童自立支援施設に至る施設に培われて来た子育て・子育て」と題した通り、明治時代の感化院に始まり、現在の児童自立支援施設に

至る施設(以下「施設」を対象としたものです。今では信じられないことかもしれないかもしれませんが、感化院ができるまで、子ども達は大人の監獄に収監されていました。当時の感化院関係者は「子ども」という特性と、子ども達が不良少年、悪少年と呼ばれるに至った背景(被害性)に着目し、彼等を世の中から隔離して懲らしめるのではなく、劣悪な環境から保護して育てる、まるで家庭のような施設(感化院)を設立します。施設では鍵をかけた、職員は武器も手錠も持たずに子ども達と「ごく普通の暮らし」を送ります。施設には、それを可能にする方法としくみが培われ、現代に継承されています。これを包括的に捉えること、これが博論の主たる目的です。

私の博士入学は二〇一〇年ですが、振り返ると、主査である岩木秀夫先生に初めてこの研究テーマについてご相談したのは一九九六年、まだ学部生の時でした。構想から実に二〇年、先生が退職される年によく博論としてまとめることができました。これも一重に、不出来な私を見捨てることなく、ご指導下さいました岩木先生のお陰です。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。



懇話会のお知らせ

私学教育のパイオニア

—「あさが来た」&
「八重の桜」の世界

新島襄と新島八重の研究に造詣が深く、各地の講演会などで活躍中の、元同志社大学神学部教授本井康博氏をお迎えします。

講師 本井康博氏
 日時 二〇一六年十一月五日(土)
 午後一時三〇分〜三時三〇分
 会場 日本女子大学目白キャンパス
 百年館306・307教室
 会費 無料
 申し込み 同封のハガキまたは直接会場へ
 問合せ先 赤塚 国子(文化部24回生)
 ☎0466・34・9177

本井康博氏プロフィール

元・同志社大学神学部教授。神学博士。一九四二年、愛知県生まれ。一九六九年、同志社大学大学院経済学研究科修士課程を修了後、高校の教員(社会科)、教頭を経て、同志社大学に復帰する。大学での担当科目は、「同志社科目」や「キリスト教史」であったが、主として同志社の創立者、新島襄の思想と生涯、ならびに新島の交遊や初期同志社の歴史をテーマとする。

NHK大河ドラマ「八重の桜」(二〇一三年)では、ヒロイン(新島八重)の京都時代の「時代考証」を担当した。

著書は、八重の関係書八冊を含めて五十冊を超える。主要学術書としては、『新島襄と富徳蘇峰』(晃洋書房、二〇〇二年)、『新島襄の交遊』(思文閣出版、二〇〇五年)、『新島襄と明治のキリスト者たち』(教文館、二〇一六年)、『新島襄の師弟たち』(思文閣出版、二〇一六年)など。

一般向きの講演集としては、「新島襄を語る」シリーズ(本篇一〇巻、別巻四巻、二〇〇五年〜二〇一四年)がある。さらに岩波文庫から次の新島襄三部作(同志社編を手掛けた)、『新島襄の手紙』(二〇〇五年)、『新島襄 教育宗教論集』(二〇一〇年)、『新島襄の自伝』(二〇一三年)。

大学院説明会のお知らせ

教育学専攻では、日女祭において、大学院(博士課程前期・後期)の進学説明会を開催いたします。私たちとともに学び、学校・地域の教育者・研究者として活躍しませんか。卒業生の皆様・ご父母のご参加を、教員一同、心待ちにしております。

日時 ▼ 二〇一六年十月十五日(土)
 十時〜十四時
 会場 ▼ 九十年館B棟43番教室
 (西生田キャンパス)
 申し込み ▼ 当日会場へ
 問合せ先 ▼ 教育学科中央研究室
 ☎044・952・6870

平成28年度 教育学科の会

(数字)は回生

- ◆会長 吉崎 静夫
- ◆副会長 浦野 敬子(25) 大森 桃子(26)
- ◆監事 古戸 のぶ子(27)
- ◇研究室委員会 委員長 齋藤 慶子 副委員長 渡邊 巧
- ◇回生委員会 委員長 萩野 厚美(25) 副委員長 藤田 良子(25) 近藤 尚子(34)

【各部会】	総務部	会計部	会員部	庶務部	会報編集部	文化部
部長	渡邊 明美(27)	菊地 康子(26)	松尾 里羽子(31)	杉山 京子(27)	石井 美奈子(38)	赤塚 国子(24)
副部長			青木 紀子(31)		妙圓 蘭 やよい(34)	渡部 泉(24)

◇学生委員会

学部1年	五百蔵 彩可 芽 智陽 田村 麗 野村 千裕 堀水 真世 横山 瑞希 白倉 実奈 善養寺 李奈
学部2年	片桐 芽吹 津田 晴奈 林辺 くるみ 酒井 朱里
学部3年	根岸 知世 川村 小袖季 森谷 真由子 五野上 葵 西元 希 丸山 侑織 小林 舞咲 戸澤 真澄 伊藤 あゆ 安田 汐里 若泉 潮音 古澤 実咲子 藤島 美羽
学部4年	飯塚 有沙子 大坪 春菜 片岡 希林 小池 真結 小石川 千裕 小島 早織 近藤 奈穂 田中 愛 塚越 綾香 永杉 世莉亜 林 麗未
大学院	猪俣 まりえ

日本女子大学教育学科の会
平成27年度決算書(平成27年5月1日～平成28年4月30日)
及び平成28年度予算書

【収入の部】

項目	平成27年度			平成28年度
	予算	決算	差額	予算(案)
入会金	110,000	98,000	12,000	100,000
会費	2,300,000	2,314,300	-14,300	2,300,000
人間研究 助成金(*1)	180,000	296,460	-116,460	200,000
受取利息	600	353	247	300
その他	0	0	0	0
収入の部合計	2,590,600	2,709,113	-118,513	2,600,300

(*1) 学科刊行物印刷費など

【支出の部】

項目	平成27年度			平成28年度
	予算	決算	差額	予算(案)
奨励金	30,000	30,000	0	90,000
印刷費				
人間研究	400,000	658,800	-258,800	600,000
会報	400,000	425,701	-25,701	430,000
名簿	10,000	0	10,000	10,000
名簿データ管理料	150,000	127,780	22,220	130,000
行事運営費				
大会	140,000	107,040	32,960	140,000
懇話会	140,000	84,095	55,905	140,000
ホームカミングデー	80,000	17,618	62,382	40,000
理事会等運営費(会議費)	90,000	95,222	-5,222	100,000
活動費				
研究室委員会	220,000	217,657	2,343	220,000
学生委員会	50,000	11,368	38,632	50,000
回生委員会	165,000	122,817	42,183	155,000
総務部	50,000	57,416	-7,416	53,000
会計部	30,000	30,658	-658	30,000
会員部	12,000	12,925	-925	14,500
庶務部	38,000	33,849	4,151	55,000
文化部	20,000	19,140	860	20,000
会報編集部	100,000	88,270	11,730	100,000
研究誌編集部	40,000	21,254	18,746	40,000
研究室経費	40,000	31,606	8,394	40,000
送料(章の発送費)・通信費	860,000	865,638	-5,638	845,000
事務・消耗品費	25,000	37,300	-12,300	38,000
慶弔費	10,000	4,784	5,216	10,000
雑費	20,000	65,700	-45,700	20,000
ホームページ	70,000	63,402	6,598	65,000
桃柿育英会(震災義援金)	20,000	20,000	0	20,000
支出の部合計	3,210,000	3,250,040	-40,040	3,455,500

↓

【平成27年度 収支差額】	-540,927
【前年度からの繰越金】	7,334,680
【次年度への繰越金】	6,793,753

上記のとおり報告いたします。

平成28年5月28日

教育学科の会

会長
会計

岩木 秀夫

相沢 喜代美

上記について慎重に監査した結果、いずれも適正かつ妥当なものと認めます。

監事
監事

佐藤 美知子

渡辺 昌江

会員の広場

ハガキ コーナー



◆「あさが来た」の故か、今年は寮の集いなどで盛り上がっています。知らないことも多く、あらためて成瀬先生に感服しました。片桐先生の記事もとてもよかったです。

12 回生 神奈川県 神奈川

◆昨年は四月の片桐先生の公開講座に始まって、都合3回も目白に通うことになって、朝ドラ抜きで成瀬先生に近づけた気持ちになりました。成瀬先生の宗教観、私ももっと知りたいところですので、また片桐先生の講義を楽しみにしております。

12 回生 東京都 東京

◆ドラマ「あさが来た」によって、その卒業生でよかったなあと思いました。広岡浅子さんのことは知らなかったです。成瀬記念館も弟達家族と行つてとても盛況でありました。

13 回生 埼玉県 埼玉

◆昨秋なんと卒五十周年！久しぶりの椿山荘で、スライドで現在の校舎（ビル群でした！）を拝見。時間の経過を感じました。でも同級生皆、生き生きでした。

15 回生 福島県 福島

◆仕事で朝は観られないので、録画して欠かさず「あさが来た」を観ました。本も数冊買って読み、広岡浅子展に二回も行つてしまいました。（一回めは土曜日が12時で終わることを知らず12時10分に着いたので入れませんでした。）その熱心さに我ながらあきれてしまいます（笑）。広岡浅子さん、本当にすてきな人ですね。

26 回生 早稲田大学 早稲田

◆「あさが来た」のドラマ化で小説「土佐堀川」はじめ刊行された広岡浅子の記事を読み、母校を誇らしく思うとともにこれからの発展を強く願っています。

26 回生 香川県 香川

◆ヤマハ「健康と歌」の講師を担当して四年めです。91歳の新入会員がとてもお元気で、毎週お会いするのが楽しみです。ウエルネスのグループ6クラス25名の高齢者の笑顔に癒され、私からは音楽の楽しさ、季節の移り変わりを感じる喜び等を伝えていきます。

28 回生 笠井 幹

◆二年前に公立中学校家庭科教員としての職を辞し、「心の教室」相談員として、週4日中学校2校で勤務しています。中学生の「心の声」に耳を傾ける日々ですが、進路や友人関係の悩みだけでなく、家族関係の悩みが増えていることが気になります。ニュースや新聞での報道でも心を痛めることが多く、少しでも中学生に寄り添えるよう微力ながら活動しています。

31 回生 鈴木 浩子

◆二人の娘が社会人となり、夫婦だけで宇都宮に戻ってから、再びピアノを習い始めました。四年目になります。なかなか思うようには弾けないのですが、同世代の先生と楽しくおしゃべりをしながらレッスンしています。細く長く続けることができるといいなあと思っています。

33 回生 竹内 さち子

◆NHKの「あさが来た」をみました。多くの人の思いが詰まった母校なのだと思ふ感じが入りました。国づくりは人づくり。教育の大切さを訴え私欲を超えた気持ちで生まれた大学で学べたことを誇りに思います。そして今、またこの精神を振り返ってみる時のような気がしています。

37 回生 鹿児島県 鹿児島

◆日本女子大学を卒業して早三年、教師になって四年目の春を迎えています。いろいろな仕事を任せられるようになり、まだまだな自分に落ち込むこともあります。そんなときには大学時代を思い出し、頑張っているであろう友人達の顔を思い浮かべ、また前を向いています。

63 回生 衛藤 美幸

◆お世話になった東原先生が退任されるこのことで、とてもさみしいです。いつも気さくに声をかけてくださってうれしかったです。いろいろなボランティアも紹介していただきました。ありがとうございました！

65 回生 神奈川県 神奈川

訂正とお詫び

葦68号に誤りがありました。インタビューをお受けいただいた新井真生様、ご関係の皆様、深くお詫びいたします。

葦68号「先輩にインタビュー」8ページ2段目

(正) ★仕事をしていて、大変だと感じたことは何ですか？

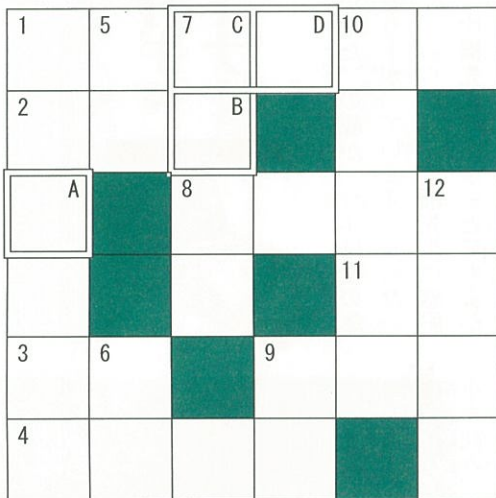
多忙なことにつきまます。仕事に終わりがありません。やろうと思つたらいくらでも仕事はあります。また、ある意味やらなくても済んでしまいます。それを自分で責任を持って取捨選択しなければいけません。決まった仕事、これをやったら終わり、というのがないのが大変だと思います。

会計部からのお願い

「人間研究」や「葦」の印刷や発送、その他教育学科の会のホームカミングデイなどの行事の運営にかかわる費用は、皆様教育学科の会の会員の会費によって賄われています。会費納入をお忘れの方はぜひよろしく願いいたします。

クロスワードパズル

二重線枠の文字を組み合わせてできるひらがな4文字の言葉は？



答え

A	B	C	D
---	---	---	---

<タテのカギ>

1. 奈良と鎌倉
5. 反応は〇〇ね
6. 〇〇、カン、ペットボトル
7. 特に年末年始はかみさまに
9. 花咲か爺さんが投げたのは
10. もぐります。海猿
12. わたしはおかあさんね

<ヨコのカギ>

1. 私たちもかつてはそうでした
2. 具合が悪いと近くの〇〇〇へ
3. 身からでた〇〇
4. ブームもありました。ヨシモト健在!
8. どの世界にもいるものです
9. 屋根や電柱の修理に必要
11. 葦クロスワードなう

締め切り
10月7日(金)
必着



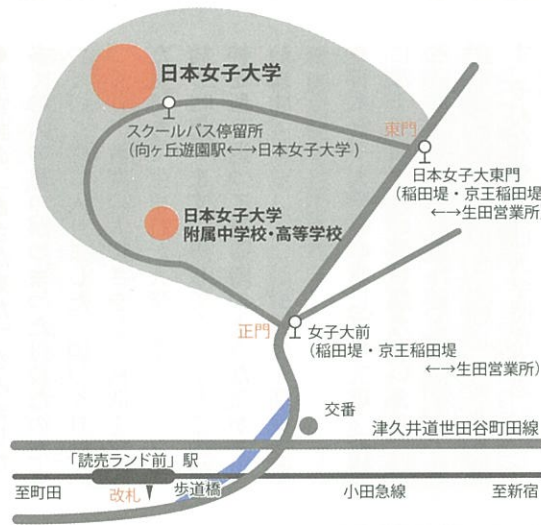
- ◆解答を同封のハガキに書いて送ってください
正解者 10 名に図書カードを贈呈します。
(正解者多数の場合は抽選)
- ◆前回の正解は<クツミガキ>でした。
たくさんのご応募ありがとうございました。

【当選者】(敬称略・数字は回生)

遠藤 明子 (7) 吉嶺 一子 (8) 斉藤 洋子 (14) 佐藤 登志子 (20) 鈴木 浩子 (31) 荻野 美香 (37)
小枝 恭子 (42) 吉永 真理 (54) 長倉 香織 (59) 高橋 彩乃 (61)

「葦」今号編集時点で、スクールバスの日女祭特別ダイヤは決定していません。ご乗車になられる方は、「日本女子大学」のホームページから「交通アクセス」→「西生田キャンパス」→「バス停・時刻表」とすずんでご確認ください。(教育学科の会のホームページではありませんのでご注意ください。)

※卒業生の方は西生田キャンパス入構・スクールバス乗車に際して、身分確認用として、「葦」送付時の封筒をご持参ください。



交通のご案内

- ◆小田急線 読売ランド前駅下車
徒歩 15 分
・新宿から急行 25 分
(向ヶ丘遊園乗り換え)
・新宿から準急 30 分
- ◆小田急線 向ヶ丘遊園駅下車
北口 3 番停留所よりスクールバス
(所要時間約 15 分・無料)
- 京王線
『京王稲田堤』駅下車/
小田急バス(生田営業所行)約 12 分/
日本女子大東門または女子大前下車
- JR 南武線
『稲田堤』駅下車/
小田急バス(生田営業所行)約 12 分/
日本女子大東門または女子大前下車

編集後記

★ハガキコーナーは「あさが来た」で盛り上がりつつありますね！5年後に教育学科が目白台に戻ってきたら、何かこうした盛り上がりがあるかな、何かが起きるかな、と楽しみにしています。

高橋 藤枝 (23回生)

★今年の夏は冷房のきいた部屋で犬と一緒にオリピックと高校野球の観戦三昧でした。

佐藤 恭子 (34回生)

★仕事、家事に追われ、余裕がないはずなのに、又、何か新しいことにチャレンジしたくなって来ています。もはや、病気かもしれない・・・。

妙園 やよい (34回生)

★もし今大学生に戻れたならば猛烈に勉強するの！残念。

斉藤 素子 (34回生)

★私は「学縁」と命名された牧野暢男先生が赴任された年の、初めての卒論ゼミ生でした。先生、お元気でいらつしやいますか？

内山 睦美 (34回生)

★「あさが来た」では女学生、「とと姉ちゃん」では偉大な、らしいう先生。すごい先輩がいるなど女子大にますます愛着の湧くこの頃です。

星野 ひろみ (37回生)

★奨励賞を受賞された皆様や、ハガキコーナーの先輩・後輩方のお言葉に尊敬の念を覚えます。私もいつまでも好奇心を持って様々なことにチャレンジしていきたいと思いを新たにしました。

石井 美奈子 (38回生)

年号表記につきましては、原稿により、和暦と西暦があり、併用しています。